

2020年6月実績概要(メモ)

(2020. 7. 22)

本年の定修の集中月に当たり、エチレンをはじめ川下の各誘導品も減産品目が多数にのぼる。

1. 生産動向

イ) エチレン 418,500トン

前月比 ▲4.6% (▲20,000トン)
前年同月比 ▲15.5% (▲76,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	▲ 5.0 %	▲ 12.0 %
能力増減	—	+ 0.1 %
稼働率変動	+ 3.6 %	▲ 3.6 %
生産増減率	▲ 4.6 %	▲ 15.5 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月89.4% → 当月92.2% ← 前年同月95.3%

定修プラント：前月2社2プラント → 当月3社3プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の減少と合わせて、定修規模差や稼働率要因からLD、PP、PS、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、トルエンなどの12品目がマイナス。HD、塩ビモノマーなどの5品目は主に稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等からLD、PP、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、SBR、トルエン、キシレンなどの12品目がマイナス。HD、SM、ANなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数減とともに定修規模の増加や稼働率要因からLD、PP、PSはマイナス。HDは主に稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からLD、PP、PSはマイナス。HDは定修規模の減少と稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、緊急事態宣言解除後の経済活動の再開もあり、個人消費の面では依然厳しさが続く中、持ち直しの動きも出はじめたことに加え、営業日数自体の増加もあり、LD、HD、PP、PSともにプラスとなった。

一方、前年比では、4樹脂ともにマイナスとなり、前月に続いて当該月の単月の出荷量としては近年では最低レベルの出荷となった。出荷分野別の状況としてもPEにおけるフィルム分野や、PPの射出成形分野、PSの包装分野を中心に大幅な出荷減少が見られている。

ハ) 輸出

前月比では、LD、PSは海外では経済活動の再開の動きが早めにでていることもあり、輸出量は通常レベルより増加しプラス。当月、生産が大きく減少し輸出余力がなくなったPPのほか、HDでもマイナスとなった。

前年比では、前年が国内出荷への偏重傾向から輸出レベルが低下していたこともあり、当年はLD、HD、PSの3樹脂でプラス、PPのみはマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、供給量の減少に伴う在庫払い出しもあり、PPの大幅な減少をはじめLD、HDで減少、PSは僅かに増加した。この結果、在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPともに低下、PSのみが上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSでやや高め、PPはほぼ適正レベルに近づきつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		5月末	6月末
LD	▲21,300	3.7	3.4
HD	▲9,400	3.4	3.3
PP	▲86,300	3.6	3.4
PS	+1,500	2.4	2.6

以上